

# 今月の畜産物市況

## 牛枝肉・豚枝肉・鶏卵・食鶏

### 牛枝肉

#### いぜんとして強い

7月、8月相場も引続き強含みを続けており、入荷頭数もやや増えてきているが、入荷の程度が低いのであるから、品薄の状況にはかわらない。

小売筋も活況を示しており、値段はあがるいっぽうであり、この状態は当分続く見通しで、下押材料はなに1つ見当らない。

輸入肉も相当入り、出回っているが、少々並物に影響を与える程度で、大勢には関係なからう。

### 豚枝肉

#### 好調

最近、豚肉は400円台にとどまりそうな活況を示しているが、これは加工筋の買いがあるのと、牛肉の高騰により精肉面で豚肉と肩がわりしようとする向きもあって、商状は旺盛である。

またいっぽう、豚の飼養頭数は増加しているので、加工筋が手引かえたり、産地側から出荷増になったりすると反落しはしないかと警戒される面もある。

### 鶏卵

#### 期待

7月の相場は月初めから20日頃までは、150円から160円前後の動きで、あまり期待するほどのことはみられなかったが、月末から買気が強まり、東京高も好材料となって連日急騰して190円台に突入した。

8月以降の相場は、一応期待できると思うが、山あり谷ありの変動の大きい相場の動きとなるもようである。というのは、いままでの鶏卵生産の主力をにぎっていたのは今年の春ビナであったが、今後は生産主力が今年の秋ビナおよび今年の春ビナにおきかえられるため、この時期の飼養羽数は実質対前年比が30パーセントの減少となっているため、入荷数量は依然として160トン前後予想されるが、高値の期待がもれたている。

### 食鶏

#### 変らず

ブロイラーは7月末に10円高がみられたが、親メスは夏場に入り廃鶏が多少増加して期待できなかった。ブロイラーは計画生産されているので、大きな変動はない。

岡山畜産便り 1965.08

大阪市屠場屠畜頭数

畜種	頭数	メス	ヌキ	オス
肉用牛	6,409	3,120	2,480	809
子牛	386	73	0	318
豚	18,805	9,288	9,288	229
馬	36	15	17	4
乳牛	1,528	1,445	27	56
山羊	1	1	0	0

7月中物平均価格 (Kg当り、単位円)

畜別	39. 7	40. 7	
牛 {	メス	367	460
	ヌキ	382	473
	オス	355	454
豚	324	331	
卵 (1級品) {	大鶏	148	160
	全販	153	159
	ブロイラー	177	180
	親鶏	171	115

阪神地区入荷推定数量

区分	鶏卵	ブロイラー	親鶏
岡山	19,000 t	20,000羽	10,000羽
山	14,000	70,000	15,000
香	650	25,000	30,000
大	25,000	300,000	310,000
そ			
の			
他			
計	58,650	415,000	365,000

共同出荷実績

区分	鶏卵	ブロイラー	親鶏
経西美養	780 t	一羽	一羽
済大	—	—	—
連寺作	—	—	—
養鶏加工連	—	17,000	12,000
計	780	17,000	12,000

## ニュース・パトロール

### 皇太子、岡山県の酪農施設を見学

第 15 回日本海洋少年団全国大会にご出席のため、来岡されていた皇太子さまは、8月3日、県北蒜山の岡山県乳牛育成場と酪農大学校を見学になり、ジャージー乳牛を中心とした特異な酪農経営についていろいろと質問をされた。

また4日には、津山市太田の岡山県酪農試験場を見学された。図師酪農試験場の案内でホルスタイン乳牛や、ランドレース種の豚をご覧になり、熱心な質問をされた。

### 岡山市で豚コレラ

岡山市浜の養豚業者の飼っている豚に異情豚が発生したが、岡山家畜保健衛生所が調査した結果、豚コレラであることがわかった。

このため、県では発生した豚全部を畜殺処分にするとともに、岡山市全域の豚約3千頭の移動を禁止し（予防注射をし家畜保健衛生所長の許可のあるものは除く）予防注射を受けるよう警告した。

県下で豚コレラが発生したのは、昭和38年1月岡山市で発生以来、2年半ぶりである。

(山陽新聞8月11日)

### 種雄豚の共励会を 種豚改良協議会

岡山県種豚改良協議会（会長熊本強氏）は、8月10日、岡山市磨屋町の県農業会館で役員会を開いたが、その席上、岡山県ではじめての種雄豚の共励会を来年2月に開くことに決めて、準備を急ぐことになった。この計画は同協議会が県および経済連の協力を得て、県内の養豚農家から純粋豚をより抜き共励会までに純粋豚のかけ合せによる優秀な種雄豚を繁殖させて、共励会にはラ種、ヨ種の純粋種雄豚2、30頭を出品させる予定である。

共励会には他県の養豚業者を招き、岡山の種雄豚を認識させるとともに、農家相互で交換も行い、種豚への関心を深めてゆく考え。